

〔搜神記〕<sup>四</sup>昔有商人歐明、乘船過青草湖、忽遭風雨晦冥、而逢青草湖君、邀歸止家、謂歐明曰、惟君所須富貴金玉等物、吾當與卿、傍有人私語曰、君但求如願、不必餘物、明依其人語、湖君默然、須臾便許、及出、乃呼如願、是一少婦也、湖君語明曰、君領取主家如要物、但就如願、所須皆得、至家數年、遂大富、後至歲旦、如願起晏、明鞭之、如願以頭鑽糞、帝中漸沒、失所在、明家漸貧、故今人歲旦糞帚不出戶者、恐如願在其中也。

〔清嘉錄〕<sup>一</sup>歲朝 元日、<sup>略</sup>中俗忌掃地、乞火、汲水、并針剪、又禁傾穢、澆糞、諱啜粥及湯茶、淘飯。<sup>略</sup>中案

〔年中行事故實考〕<sup>正月</sup>元日掃除せざる故事

五雜俎<sup>略</sup>中我俗に掃除せざるもこれに據にや、一説新に來る陽氣をはらひすてずして、靜養する意なるべしと、附會の説なり、

〔日本歲時記〕<sup>正月</sup>元日 世俗に、今日終日屋中を掃除せず、是新に來る陽氣をはらひすてずして、靜養する意なるべし、五雜俎に、閩の俗<sup>略</sup>中古人如願と喚の意なりと云るせり、まかればもろこしにもかゝる事侍ると見えたり、

〔俳諧歲時記〕<sup>正月</sup>元日不開戶 江戸の商家、元日多くは戸を開かず、一日廢務也、又俗間家内を掃除せず、凡新年の陽氣を重するの義也、唐山にもこの事あり、閩部疏に云、閩の俗歲首を重ず、民間正戸を開かず云々、

〔嬉遊笑覽〕<sup>入諱</sup>人の去し跡を掃ことを忌も古き事なり、<sup>略</sup>中此に依て思ふに、元日より三日は家をはく事をせぬわざあり、今はさまではあらねど、元日は民家すべて掃ことをせず、是また件のことによりてなり、世説故事苑、五雜俎<sup>略</sup>中古人喚如願之意也、是吾俗の元日より三日掃除せぬこと、又俵子及金銀の包たるを買て、祝する類なりといへるも、似たる事なれど、それは掃ぬに